



*The Japanese  
Society of  
Toxicology*

**Vol. 39 No. 6  
December 2014**

# 毒理学ニュース

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

## 毒性学ニュース

### Contents

---

#### 日本毒性学会からのお知らせ

第 42 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 3 報) .....	99
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 1 報) .....	103
第 17 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験合格者 .....	104
2015 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領 .....	105
2015 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領 .....	106
2015 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領 .....	106
毒性学ニュース Vol.39 No.5 誤記の訂正とお詫び .....	107
第 41 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について .....	108

#### その他のお知らせ

第 88 回日本産業衛生学会 .....	109
第 6 回日本安全性薬理研究会学術年会 .....	109
第 19 回シトクロム P450 国際会議のお知らせ .....	110
第 17 回環境ホルモン学会研究発表会 .....	110

#### 毒性学ニュース索引 (39 巻)

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fund. Toxicol. Sci. 投稿規程

入会案内／変更手続き

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

---

## 第42回日本毒性学会学術年会のご案内（第3報）

### 1. 会期

平成27年(2015年)6月29日(月)～7月1日(水)

### 2. 会場

- ・石川県立音楽堂  
〒920-0856 石川県金沢市昭和町20-1  
TEL: 076-232-8111  
<http://www.ongakudo.jp/>
- ・金沢市アートホール  
〒920-0853 石川県金沢市本町2-15-1  
TEL: 076-224-1660  
<http://www.art-h.gr.jp/>
- ・ホテル日航金沢  
〒920-0853 石川県金沢市本町2-15-1  
TEL: 076-234-1111  
<http://www.hnkanazawa.jp/>

### 3. テーマ

「健康と環境を衛る毒性学」

### 4. 年会長

鍛冶 利幸 (東京理科大学薬学部 教授)

### 5. 企画委員 (敬称略・五十音順)

- 青木 豊彦 (株)サンプラネット)
- 石塚真由美 (北海道大学)
- 市原 学 (東京理科大学)
- 上野 光一 (千葉大学)
- 小椋 康光 (昭和薬科大学)
- 小野寺博志 (医薬品医療機器総合機構)
- 菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)
- 木村 朋紀 (摂南大学)
- 熊谷 嘉人 (筑波大学)
- 佐藤 雅彦 (愛知学院大学)
- 神野 透人 (国立医薬品食品衛生研究所)
- 鈴木 雅実 (中外製薬(株))
- 関 二郎 (京都大学)
- 高崎 涉 (第一三共(株))
- 遠山 千春 (東京大学)
- 苗代 一郎 (医薬品医療機器総合機構)
- 永沼 章 (東北大学)
- 中村 和市 (北里大学)
- 野村 護 (株)イナリサーチ)
- 姫野誠一郎 (徳島文理大学)

- 広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
- 藤原 泰之 (東京薬科大学)
- 堀井 郁夫 (ファイザー(株), 昭和大学)
- 務台 衛 (田辺三菱製薬(株))
- 山田 久陽 (大正製薬(株))
- 山田 英之 (九州大学)
- 山本 千夏 (東邦大学)
- 横井 毅 (名古屋大学)
- 吉田 武美 (薬剤師認定制度認証機構)

### 6. 特別企画 (予定, 敬称略)

- 1) 第13回市民公開セミナー  
テーマ: 食品表示新時代  
～かしこく摂ろう「健康食品」～  
日時: 2015年6月28日(日)  
午前10:00～11:30  
場所: 金沢市アートホール
- 2) 年会長招待講演  
詳細については追ってご案内いたします。
- 3) 特別講演
  - (1) 大江知行 (東北大学大学院 薬学研究科)
  - (2) 川上浩司 (京都大学大学院 医学研究科)
  - (3) Kurt Straif (WHO International Agency for Research on Cancer)
  - (4) Tim Anderson (Pfizer, Drug Safety Research & Development)
  - (5) 神谷研二 (広島大学 原爆放射線医学研究所)
- 4) 教育講演
  - (1) Thomas J. Hudzik (Global Pharmaceutical Research and Development, Abbvie Inc.)
  - (2) 未定
  - (3) 浅見忠男 (東京大学大学院 農学生命科学研究科)

- 5) シンポジウム (仮題・順不同 20 セッション)
- ・ *In vitro* と *in vivo* の接点から探るエピジェネティック毒性
  - ・ 毒性学における生体リズムの重要性を考える
  - ・ 毒性学における活性イオウ分子の意義を理解する
  - ・ 実験発がん研究の新基軸 (故きを温ねて新しきを知る)
  - ・ ヒト iPS 細胞技術の薬剤安全性評価応用に向けた研究動向
  - ・ 小児用医薬品開発を考える
  - ・ ヒト副作用リスク最小化に向けたトランスレーショナルリサーチ: 医薬品の副作用研究 *in vitro* から臨床まで
  - ・ 非臨床・臨床境界領域でのクロストーク メカニズムベース・セーフティー戦略の構築
  - ・ 心・腎・肝連関
  - ・ 毒性シミュレーションおよび毒性ビッグデータマイニングの創薬への活用
  - ・ 環境毒性学の新たな潮流 — 環境汚染物質による生活習慣病, 生活環境病の増加・増悪とそのメカニズム —
  - ・ Species Differences in Xenobiotic/Drug Metabolism ~ 異物/薬物代謝の種差解明の最先端 ~
  - ・ 類金属の化学と毒性学: その有用性と有害性のトレードオフからの脱却を目指して
  - ・ 環境化学物質が発達と成熟に及ぼす影響
  - ・ 毒性発現の細胞内シグナル伝達機構
  - ・ ゼブラフィッシュ研究の最前線
  - ・ エピゲノミクス・ゲノミクス解析の進展と適応拡大する毒性オミクス
  - ・ ナノマテリアルの毒性評価の進捗
  - ・ 話題の薬毒物中毒の基礎と臨床 — 危険ドラッグから医薬品まで — (日本中毒学会との合同シンポジウム)
  - ・ 農薬の安全性と毒性の評価とその問題点
  - ・ 次世代研究者セミナー: 薬物の安全性評価における新たな挑戦
- 6) ワークショップ (仮題・順不同 5 セッション)
- ・ メタロチオネイン研究の最前線 — 誘導機構解明に向けた挑戦 —
  - ・ イオンチャネル型受容体の機能とその毒性学的な意義
  - ・ 薬物性肝障害のスクリーニングに関する最新動向

- ・ 医薬品開発における適切な安全域設定のための多様な試み
- ・ SOT との合同企画: 日米毒性学会の交流促進プログラム — 免疫毒性の進捗 —

#### 7) 就職活動支援プログラム (安全性研究の現場紹介)

### 7. 一般講演

- 1) 一般演題 (口演およびポスター) を募集します。主発表者 (プレゼンター) は本学会会員に限ります。現在非会員の方で発表を希望される方は、学会 HP 掲載の入会申込書にて、日本毒性学会事務局へ入会の手続きを行って下さい。  
日本毒性学会ホームページ: <http://www.jsot.jp/>
- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記 8 に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会 HP から登録して下さい。  
演題申込開始日: 2014 年 12 月 19 日午前 10:00 ~ (予定)  
演題申込締切日: 2015 年 2 月 13 日午後 1:00 (予定)
- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて 10 ~ 15 分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上できるだけ早い時期にお知らせいたしますので、ホームページなどで随時ご確認ください。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えでポスター展示を行い、途中に質疑応答時間を設けます。
- 4) 優秀研究発表賞  
2015 年 3 月 31 日時点で 35 歳以下の方を対象として候補者を募集いたします。  
応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を行っていただきます。受賞者の発表は、2015 年 6 月 30 日 (火) に懇親会会場で行い、授賞式は、2015 年 7 月 1 日 (水) に学会会場で行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

### 8. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン

登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバー処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要項と年会 HP を熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・訂正◆

年会 HP にアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。

なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。  
発表者個人情報登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。登録には会員番号（5桁）が必要です。

パスワード（半角英数）は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。4文字以上10文字以内で入力して下さい。なおパスワードは「登録内容の変更」により変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

2) 共著者・演題情報登録

2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。  
共著者数は最大20名、所属機関名は最大15施設まで登録可能です。

2-2) 演題カテゴリー登録

次の中から発表内容に適したものを選択して下さい。

- 101. 医薬品
- 102. ワクチン
- 103. 農薬
- 104. 金属
- 105. 工業用化学物質
- 106. トキシン
- 107. 食品・食品添加物
- 108. 食品汚染物質
- 109. 環境汚染物質
- 110. 発がん性物質
- 111. 内分泌攪乱物質
- 112. ナノマテリアル
- 113. 放射線
- 199. その他の物質
- 201. 脳神経系

- 202. 肝臓
- 203. 腎臓
- 204. 皮膚
- 205. 感覚器
- 206. 消化器
- 207. 呼吸器
- 208. 循環器
- 209. 生殖器
- 210. 胎児
- 211. 内分泌系
- 299. その他の組織, 系
- 301. 一般毒性
- 302. 生殖毒性
- 303. 遺伝毒性
- 304. 発がん
- 305. 行動毒性
- 306. 免疫毒性
- 307. 薬毒物中毒
- 308. 薬物依存性
- 309. 細胞毒性
- 310. 発生毒性
- 311. 発達毒性
- 312. 酸化ストレス
- 313. 炎症
- 314. エピジェネティクス
- 315. マイクロRNA
- 399. その他の毒性指標（バイオマーカー等）
- 401. 蓄積・排泄
- 402. キネティクス
- 403. 薬物代謝
- 404. 毒性発現機構
- 405. 生体（細胞）応答
- 406. 毒性病理学
- 407. 分子毒性学
- 408. 毒性関連遺伝子
- 409. 安全性評価
- 410. 毒性試験法
- 411. 分析法
- 412. 幹細胞
- 413. モデル動物
- 414. 遺伝子多型
- 415. 高感受性集団
- 416. オミクス
- 417. 統計解析法
- 418. 疫学・臨床毒性学
- 419. 情報（含リスクコミュニケーション）
- 420. 代替法
- 499. その他の機構, 手法

## 2-3) 発表形式

発表形式を「口演」, 「ポスター」, 「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。

優秀研究発表賞への応募の有無を選択して下さい。

## 2-4) 演題名

文字数について、登録ページの入力欄には、文字数制限がありません。下記を目処にお願いします。

日本語演題名 文字数:

最大全角 80 文字 (スペース含め)

英語演題名 文字数:

最大半角 200 文字 (スペース含め)

なお、演題名に特殊文字/上付き/下付き/ボールド/イタリックなどの文字を含む場合には、下記ページの HTML タグを使用し、入力をしてください。

ただし、この HTML タグは、上記文字数にはカウントしません。

(タグ一覧/特殊文字一覧/よく使用する特殊文字ページ)

[http://www.senkyo.co.jp/tag/ja/tag\\_list.html](http://www.senkyo.co.jp/tag/ja/tag_list.html)

## 2-5) 要旨作成要領

文字数は全角で 800 文字以内 (半角英数字は 2 文字を 1 文字に換算) です。本文中に演題名・所属・氏名・図表等を入れないで下さい。

## 3) 登録内容確認・訂正

登録の最後に登録情報の確認画面が表示されますので、内容を確認・訂正して下さい。後日改めて確認・訂正を行なう場合は、登録時に入力したパスワードを用いて確認・訂正画面を表示させることができます。

## 4) 登録完了

登録が完了すると受付番号が表示されます。登録したメールアドレス宛てに演題登録完了メールが送信されますので確認して下さい。翌日まで経過してもメールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

## 9. 参加登録および参加費

事前参加申込開始日:

2015 年 1 月 20 日 午前 10:00 ~ (予定)

事前参加申込締切日:

2015 年 4 月 15 日 午後 1:00 (予定)

## 1) 参加費

	事前登録	当日受付
学会員	11,000 円	13,000 円
非学会員	14,000 円	16,000 円
学生会員	3,000 円	4,000 円
* 共催・協賛学会会員	12,000 円	14,000 円
懇親会 (一般)	9,000 円	11,000 円
懇親会 (学生)	4,000 円	5,000 円

\* 共催・協賛学会については調整中です。

2) お振込 (決済) 等の詳細については年会 HP にて追ってご案内いたします。

## 10. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時: 2015 年 6 月 30 日 (火) 午後 6:30 より (予定)

会場: 金沢東急ホテル

5 階「ボールルーム」(予定)

## 11. 展示・ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナー・スポンサー、広告掲載、展示出展を募集します。詳細はホームページ (<http://jsot2015.jp/contents/company.html>) に掲載しておりますのでご覧下さい。

## 12. 年会事務局

事務局長: 山本 千夏 (東邦大学薬学部 教授)

〒 274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1

TEL: 047-472-1827 FAX: 047-472-1233

E-mail: [secretariat@jsot2015.jp](mailto:secretariat@jsot2015.jp)

## 13. 第 42 回日本毒性学会学術年会ホームページ

<http://jsot2015.jp/>



## 日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第1報)

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

### 「第16回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会は3コースを一日で学習するフレームで開催いたします。講習内容は、①トピックス（新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する）、②臓器毒性（各種臓器の毒性反応についてメカニズムを含め深く学習する）、③SD育成講座（試験責任者として試験結果の解釈・理解・評価を深める為の知識を学習する）で構成します。また、環境毒性についても、講習内容に加えていきます。詳細なプログラムにつきましては、決定後、学会ホームページおよび毒性学ニュースにてお知らせいたします。

#### 1. 日 時

2015年6月28日（日）

#### 2. 会 場

金沢市文化ホール（予定）

#### 3. プログラム（予定）

- 1) トピックス：SOTでのContinuing Education Courseの議題をもとに
- 2) 臓器毒性：生殖発生毒性
- 3) SD育成講座：環境毒性、非病理学者のための病理学講義

#### 4. 参加費（1日フルコースとして設定）

事前申込	
会 員	5,000円（予定）
非会員	7,000円（予定）
認定トキシコロジスト	3,000円（予定）
当日申込	
会 員	7,000円（予定）
非会員	10,000円（予定）
認定トキシコロジスト	5,000円（予定）

### 「第18回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。集中講義によってトキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、秋季に開催されます第18回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。3日間をかけて17名の先生方に講義していただきます。

#### 1. 日 時

2015年8月6日（木）～8日（土）（予定）

#### 2. 会 場

東京大学農学部 1号館（予定）

#### 3. 参加費

一般会員	25,000円（予定）
学生会員	5,000円（予定）
非会員	30,000円（予定）
学生非会員	8,000円（予定）
認定トキシコロジスト	20,000円（2～3日受講）（予定）
	10,000円（1日受講）（予定）

#### 4. テキスト

「[新版]トキシコロジー」(朝倉書店, 2009年刊)の内容を中心に講義を行います。参加者はあらかじめ書店等で購入することをお勧めします。正誤表は学会ホームページに掲載されています。

### 「第18回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための認定試験です。書類審査で受験資格を得た上で受験してください。

受験資格の詳細は毒性学ニュース、学会ホームページの『日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定』をご覧ください。

#### 1. 日 時

2015年10月4日（日）（予定）

#### 2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス（予定）

#### 3. 受験料

30,000円（予定）

### 「認定トキシコロジスト資格の更新」

2000年、2005年、2010年に認定トキシコロジストに認定された方（認定トキシコロジストNo.171～194、304～325、457～480）は2015年が資格更新の時期となります。詳細は2015年1月頃に郵送いたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

## 第17回日本毒性学会認定トキシコロジスト 認定試験合格者

2014年10月5日、昭和大学 旗の台キャンパスで行われた第17回認定トキシコロジスト認定試験の結果を審査したところ、試験問題総数200問の試験において140点以上の得点を獲得し、合格と判定された受験者は次の24名でした。

おめでとうございます。

受験者の総数は77名でした。

伊東 志野	井村奈緒子	香川 雄輔	菊月 隆太
北口 隆	北嶋 晶子	坂本 洋平	白石 雅和
末廣 美紀	高野 正志	高橋 一彰	田中 直子
田淵 秀剛	田村 明敏	田村 圭	團野 信子
栃谷 智秋	西川 智美	堀内 雅史	前田 麻希
宮田 英典	山下 晃人	米澤 豊	渡邊 諒

(五十音順 敬称略)

2014年10月31日

一般社団法人日本毒性学会

理事長 眞鍋 淳

教育委員会委員長 務台 衛

認定試験小委員会委員長 久米 英介



## 2015 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

**候補者の資格:** 日本毒性学会非学会員。

**推薦者の資格:** 日本毒性学会理事 1 名。

**表彰:** 授賞者数は毎年, 最大 1 名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

**受賞講演:** 受賞者 (或いは代理人) は日本毒性学会学術年会にて受賞講演 (15 分程度) を行う。

**候補者の推薦:** 推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛 (事務局) に電子メールで提出する。

1. 推薦書 (候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの)
2. 推薦理由 (1,000 字以内)
3. 特別賞の対象となる業績目録: 原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

**推薦書類の送付先:** jsotq@jsot.jp  
(日本毒性学会事務局)

**推薦締切:** 2014 年 12 月 31 日 (水)

## 2015 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

**候補者の資格：**現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

**推薦者の資格：**日本毒性学会評議員 1 名。

**表彰：**授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2015 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

**受賞講演：**受賞者は 2015 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

**候補者の推薦：**推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（[http://www.jsot.jp/activity/award\\_society.html](http://www.jsot.jp/activity/award_society.html)）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

**推薦書類の送付先：**jsotq@jsot.jp  
（日本毒性学会事務局）

**推薦締切：**2014 年 12 月 31 日（水）

## 2015 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

**候補者の資格：**現に 3 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 40 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

**推薦者の資格：**日本毒性学会評議員 1 名。

**表彰：**授賞者数は毎年 3 名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2015 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

**受賞講演：**受賞者は 2015 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

**候補者の推薦：**推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（[http://www.jsot.jp/activity/award\\_encourage.html](http://www.jsot.jp/activity/award_encourage.html)）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 3 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

**推薦書類の送付先：**jsotq@jsot.jp  
（日本毒性学会事務局）

**推薦締切：**2014 年 12 月 31 日（水）

## 毒性学ニュース Vol.39 No.5 誤記の訂正とお詫び

日本毒性学会教育委員会  
委員長 務台 衛

一般社団法人日本毒性学会  
会員 各位

拝啓 時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、お礼申し上げます。

さて、先日お送りいたしました毒性学ニュース Vol.39 No.5 (10/1 発行) の『米国毒性学 (SOT) 教育コースへの派遣者公募』(P94) に一部内容の誤りがございました。

下記のとおり訂正いたしますとともに、心よりお詫び申し上げます。

### 【誤】

#### 1. 対象者

派遣する学会員は以下の条件の両方を満たす方とします。

- 1) JSOT 認定トキシコロジスト資格保有者、当学会評議員である者、当学会会員歴 10 年以上の正会員（原則 45 歳以下とします）で本人以外の当学会評議員の推薦を受けられる者
- 2) 1) に準じる者で、教育委員長が派遣を審査すべきと判断した者

### 【正】

#### 1. 対象者

派遣する学会員は以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- 1) JSOT 認定トキシコロジスト資格保有者、当学会評議員である者、当学会会員歴 10 年以上の正会員（原則 45 歳以下とします）で本人以外の当学会評議員の推薦を受けられる者
- 2) 1) に準じる者で、教育委員長が派遣を審査すべきと判断した者

以上

## 第41回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第41回日本毒性学会学術年会の要旨集を1部3,500円(税・送料込)で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会(第32回以降)の要旨はオンライン(J-STAGE)でも閲覧が可能です(<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>)。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500円 (1部)

通信欄記入事項：①住所 ②氏名(団体の場合は機関名・部署等) ③電話番号

④第41回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30

イタリア文化会館ビル8F

株式会社メディカルトリビューン内

TEL：03-3239-7264 FAX：03-3239-7225

E-mail：jsothq@jsot.jp

## その他のお知らせ

### 第 88 回日本産業衛生学会のお知らせ

詳細は第 88 回日本産業衛生学会ホームページ  
(<http://convention.jtbcom.co.jp/jsoh88/>)に順次掲載します。

会 期 2015 年 5 月 13 日 (水) ~ 同 16 日 (土)  
会 場 グランフロント大阪ナレッジキャピタル  
〒 530-0011 大阪市北区大深町 3-1

企画運営委員長 車谷典男

(奈良県立医科大学地域健康医学講座 教授)

メインテーマ Quality of Working Life —グローバル化と  
労働形態多様化の中での展望—

ホームページ <http://convention.jtbcom.co.jp/jsoh88/>

事前参加登録 2015 年 2 月 23 日 (月) まで、第 88 回日本  
産業衛生学会ホームページ上で受け付けます。

#### ①学会参加費

	事前登録	当日登録
学 会 員	8,000 円	10,000 円
非学会員	9,000 円	10,000 円
学生・大学院生	6,000 円	8,000 円

※事前登録の締切以降は当日受付でお支払いください。  
※事前登録をされた方には、締切後に参加証を郵送いたします。

#### ②出題費

1 題につき 2,000 円。筆頭発表者が必ず学会参加費とともにお支払いください。

#### ③懇親会費 (会員・非会員共通)

事前登録：9,000 円

当日登録：10,000 円

学生・大学院生：8,000 円

#### 演題申込および抄録原稿受付

一般演題の申込および抄録原稿の受付は学会ホームページで行います。なお、筆頭発表者は、演題申込締切日までに事前参加登録と出題費を含む支払いを完了してください。

#### ①演題申込および抄録原稿受付の期間

2014 年 11 月 6 日 (木) から 2014 年 12 月 11 日 (木)

午前 11 時

#### ②申込方法：第 88 回日本産業衛生学会ホームページからの オンライン申込みです。

懇親会 日時：2015 年 5 月 15 日 (金) 18：30 ~

会場：ヒルトン大阪 5 階桜の間

#### 研修単位の認定

特別プログラムに対して日本医師会認定産業医制度による単位認定を申請予定です。

#### 委員会・研究会等申込期間

2014 年 11 月 20 日 (木) ~ 2014 年 12 月 19 日 (金)

#### 連絡先

第 88 回日本産業衛生学会 運営事務局

〒 530-0001 大阪市北区梅田 3 丁目 3-10

梅田ダイビル 4 階

株式会社 JTB コミュニケーションズ コンベンション事業局内

TEL：06-6348-1391

FAX：06-6456-4105

E-mail：jsoh88@jtbcom.co.jp

### 第 6 回日本安全性薬理研究会学術年会

詳細は本会ホームページ <http://j-sps.org/> を参照下さい。

会 期 2015 年 2 月 20, 21 日 (金, 土)

会 場 東京大学弥生講堂 一条ホールおよびアネックス  
セイホクギャラリー

〒 113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学農学部内

東京メトロ 東大前駅 (南北線) 徒歩 1 分,

根津駅 (千代田線) 徒歩 8 分

#### 参加申込

本会ホームページにてオンラインによる事前登録

・参加費：6,000 円 (Industry)

3,000 円 (Academia, Regulatory, Student)

・申込期間：2014 年 11 月 10 日 (月) ~ 2015 年 1 月 23 日 (金)

・問合せ先：学術年会事務局 [annual\\_meeting@j-sps.org](mailto:annual_meeting@j-sps.org)

#### 一般演題募集

・口演、ポスター発表 (詳細は本会ホームページ参照)

・申込期限：2014 年 12 月 19 日 (金)

#### 懇親会

・日 時：2015 年 2 月 20 日 (金) 18：30 ~ 20：30

・会 場：東京大学キャンパス内 山上会館本館  
食堂 談話ホール

・参加費：5,000 円程度

学術年会参加事前登録と同時申込が必要

#### プログラム

##### 1. 教育講演

・幹細胞由来心筋細胞を用いた心臓薬理学研究の基礎から  
応用まで

##### 2. シンポジウム

・QT 延長評価から不整脈評価へ

・中枢神経系研究の最前線

## 3. ワークショップ

- ・これからのQT延長・催不整脈リスク研究を現場レベルで考える

## 4. 海外招待講演

## 5. 安全性薬理 Q&amp;A

## 6. 一般演題 (口頭発表, ポスター発表)

## 7. ランチョンセミナー

以上

## 申込方法

下記ウェブサイトよりお申込みをお願いいたします。  
<http://www.conet-cap.jp/19iccp450>

## お問合せ先

第19回シトクロム P450 国際会議 運営事務局  
 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原一丁目8番29号  
 テラサキ第2ビル8階 株式会社コネット内  
 TEL: 06-6398-5745 / FAX: 06-6398-5746  
 E-mail: 19iccp450@conet-cap.jp

主催 シトクロム P450 国際会議 国内組織委員会  
 責任者 山崎 浩史

## 第19回シトクロム P450 国際会議のお知らせ

日時 2015年6月12日(金)～2015年6月15日(月)

場所 独立行政法人国立青少年教育振興機構  
 国立オリンピック記念青少年総合センター  
 国際交流棟  
 (〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1,  
 小田急線参宮橋駅下車 徒歩約7分)

本国際会議は1976年より約40年の歴史をもち世界のP450研究の中心的な学会で日本では3回目の主催となります。

## 趣旨

シトクロム P450 (総称を P450, 個別分子種を CYP と略す) は、薬物の体内運命を規定する一群のヘムタンパク質酵素の総称であり、外来異物の分解や生体内物質の合成など医学・薬学関連諸分野において重要な地位を占めます。この研究に関わる研究者、大学院生あるいは大学生が世界の第一線の研究者と交流する国際体験を積むことを目的としております。

## 基調講演

1. F. Peter Guengerich, New Aspects of Cytochrome P450 Oxidations of Steroids and Vitamins
2. Eric F Johnson, Structural Determinants of P450 Mediated Human Drug Metabolism: A Moving Target
3. Allan Rettie, Drug Metabolism Contributions to the Development of Precision Medicine
4. Amin Rostami-Hodjegan, IVIVE and PBPK on P450

パラレルセッション 16 テーマ

## プログラム

下記ウェブサイトにて最新版を掲載しております。  
<http://www.conet-cap.jp/19iccp450/program.php>

参加費 現在事前参加登録受付中です。詳しくは下記ウェブサイトをご確認ください。

演題登録締切 2014年12月31日(水)

## 第17回環境ホルモン学会研究発表会

会期 2014年12月9日(火), 10日(水)

会場 東京大学山上会館  
 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

テーマ 現場から研究へ

- ★現場の詳細な観察・観測の情報なくして、現実的なテーマに基づく基礎研究・応用研究は設定しえない
- ★現場を想定した研究結果なくして、現場における更なる詳細な観察・観測は実施できない

シンポジウム1 9日(火) 2F 大会議室

「最近の環境ホルモンのヒト健康影響研究の世界の動向」  
 福岡秀興, 森 千里, 戸高恵美子

シンポジウム2 10日(水) 2F 大会議室

「ネオニコチノイドをめぐって: 中毒問題の終結」  
 菅野 純, 青山美子, 種村健太郎, 黒田洋一郎

シンポジウム3 10日(水) 2F 大会議室

「震災・原発事故による野生生物への影響: 3年半後の中間報告」  
 堀口敏宏, 伊原禎雄, 大沼 学, 山城秀昭, 福本 学

日程 <http://www.jsedr.jp/sympo/17sympo/nittei.pdf>

シンポジウム <http://www.jsedr.jp/sympo/17sympo/sympo.pdf>

口頭発表 <http://www.jsedr.jp/sympo/17sympo/oral.pdf>

ポスター発表 <http://www.jsedr.jp/sympo/17sympo/poster.pdf>

## 大会実行委員長

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所・安全セ・毒性部)



# 毒性学ニュース索引 (39 卷)

# 毒性学ニュース索引 (39 巻)

## 日本毒性学会からのお知らせ

第 41 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 4 報) .....	No. 1	5
第 41 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報) .....	No. 2	17
第 41 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 6 報) .....	No. 3	43
第 42 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 1 報) .....	No. 4	55
第 42 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 2 報) .....	No. 5	91
第 42 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 3 報) .....	No. 6	99
第 41 回日本毒性学会学術年会報告 .....	No. 5	90
第 40 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について .....	No. 1	11 / No. 2 20
第 41 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について .....	No. 4	58 / No. 5 95 / No. 6 108
第 15 回日本毒性学会生涯教育講習会案内 .....	No. 1	9 / No. 2 15 / No. 3 41
第 17 回日本毒性学会基礎教育講習会案内 .....	No. 2	13 / No. 3 39
第 17 回日本毒性学会基礎教育講習会日程 .....	No. 2	14 / No. 3 40
第 17 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験 .....	No. 2	16 / No. 3 33 / No. 4 49
第 17 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験合格者 .....	No. 6	104
第 53 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① .....	No. 4	59
第 53 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告② .....	No. 4	60
2014 年度 任意団体 日本毒性学会 評議員会・総会／一般社団法人 日本毒性学会 発足会 報告 .....	No. 5	65
2015 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領 .....	No. 4	56 / No. 5 92 / No. 6 105
2015 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領 .....	No. 4	57 / No. 5 93 / No. 6 106
2015 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領 .....	No. 4	57 / No. 5 93 / No. 6 106
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 1 報) .....	No. 6	103
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 2 報) .....	No. 1	10
日本毒性学会認定トキシコロジスト総会のお知らせ .....	No. 3	42
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書 .....	No. 3	35 / No. 4 51
認定試験受験資格のための評点表 .....	No. 3	37 / No. 4 53
米国毒性学会 (SOT) 教育コースへの派遣者公募 .....	No. 5	94
法人移行の挨拶及び入社のお知らせ .....	No. 3	23
一般社団法人移行に伴う各種学会規程類の改定について .....	No. 3	24
一般社団法人日本毒性学会定款 .....	No. 3	25
一般社団法人日本毒性学会入会規程 .....	No. 3	29
一般社団法人日本毒性学会評議員選出規程 .....	No. 3	30
一般社団法人日本毒性学会評議員推薦状 (様式) .....	No. 3	31
一般社団法人日本毒性学会理事・監事選出規程 .....	No. 3	32
理事長就任の御挨拶 (眞鍋 淳) .....	No. 1	1
編集委員長就任にあたって .....	No. 1	2
日本毒性学会理事監事 .....	No. 1	4
日本毒性学会各種委員会委員長 .....	No. 1	4
書評『毒性の科学』(東京大学出版会) (編者 熊谷嘉人, 姫野誠一郎, 渡辺知保) 吉田武美 .....	No. 4	61
新学術雑誌 Fundamental Toxicological Sciences 刊行のお知らせ .....	No. 1	3
毒性学ニュース Vol.39 No.5 誤記の訂正とお詫び .....	No. 6	107
「特別賞を受賞して」遠藤 守信 .....	No. 5	82
「学会賞を受賞して」菅野 純 .....	No. 5	83
「奨励賞を受賞して」岡本誉士典 .....	No. 5	84
「奨励賞を受賞して」吉岡 亘 .....	No. 5	84
「技術賞を受賞して」大村 功 .....	No. 5	85
「技術賞を受賞して」外山 喬士 .....	No. 5	85
「技術賞を受賞して」福山 朋季 .....	No. 5	86
「田邊賞を受賞して」吉田 緑 .....	No. 5	86
「田邊賞を受賞して」熊谷 嘉人 .....	No. 5	87
「田邊賞を受賞して」古武弥一郎 .....	No. 5	87
「田邊賞を受賞して」三浦 伸彦 .....	No. 5	88
「ファイザー賞を受賞して」古武弥一郎 .....	No. 5	88
「ファイザー賞を受賞して」佐藤 雅彦 .....	No. 5	89
「ファイザー賞を受賞して」黄 基旭 .....	No. 5	89

## その他のお知らせ

CBI 学会 2014 年大会のご案内 .....	No. 3	46 / No. 4 62 / No. 5 96
NIAS シンポジウム (日本組織培養学会第 87 回大会サテライトシンポジウム) .....	No. 2	21
シンポジウム「モレキュラー・キラリティー 2014」 .....	No. 2	21 / No. 3 46
フォーラム 2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー .....	No. 3	47 / No. 4 63
学術会議トキシコロジー分科会主催シンポジウム .....	No. 4	64
第 17 回環境ホルモン学会研究発表会 .....	No. 6	110
第 19 回シトクロム P450 国際会議のお知らせ .....	No. 6	110
第 21 回 HAB 研究機構学術年会 .....	No. 1	12 / No. 2 22
第 21 回日本免疫毒性学会学術年会 (JSIT2014) .....	No. 3	47 / No. 4 62
第 6 回日本安全性薬理研究会学術年会 .....	No. 6	109
第 88 回日本産業衛生学会 .....	No. 5	96 / No. 6 109

# J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和51年 4月 1日制定  
平成17年 8月 1日改定  
平成24年10月 1日改定  
平成26年 7月 1日改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

## 1. 論文の種類

- (1) Original Article : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter : 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview : 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を一般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (4) Special Issue : 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

## 2. 原稿の構成

A4ファイルに上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。
- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Resultsなどのサブタイトルは付けない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を( )内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 $\mu\text{m}$ , mm, cm, m,  $\mu\text{g}$ , mg, g, kg,  $\mu\text{L}$ , mL, L, mmol, mol,  $\mu\text{M}$ , mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm,  $^{\circ}\text{C}$ 。
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を( )内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合は筆頭著者のみを表示する[例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

### (例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.
- (10) Supplemental Data : 一部のデータ(Methodの詳細, 追加データ, DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など)をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

## 3. カテゴリー

第1頁(表題ページ)に下記の中から該当するカテゴリー(5つ以内)を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線

B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児

C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症

D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

#### 4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

#### 5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

#### 6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利害関係について開示する必要がある。

#### 7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿は Microsoft Word ファイルまたは PDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

#### 8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を 1 回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

#### 9. Executive Editors

若干名の Executive Editor をおく。Executive Editor の選考は編集委員会に設けられた Executive Editor 小委員会が行う。Executive Editor が責任著者になっている論文または Executive Editor が推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editor はこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる 2 名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦した Executive Editor の氏名が記載される。

#### 10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 <sup>b</sup> （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 <sup>a</sup>	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

<sup>a</sup>：4 頁目からは 16,000 円／頁。 <sup>b</sup>：図等も含む。



# Fund. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称: Fund. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイトに公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

## 1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter: 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report: 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

## 2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を ( ) 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を ( ) 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合は筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

### 3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線  
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児  
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬毒物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症  
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒理学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

### 4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

### 5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」([http://www.mhlw](http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html)

[go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html](http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html))に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

### 6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利害関係について開示する必要がある。

### 7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft Word ファイルまたはPDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

### 8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

### 9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。期限までに支払いが行われない論文は“採用取り消し”とする。

論文種	掲載料（消費税別）				
	基本料 （円／論文）	単語 <sup>a</sup> （円／単語）	図 <sup>b</sup> （円／図）	表 <sup>b</sup> （円／表）	引用文献 <sup>b</sup> （円／文献）
Original Article	20,000	4	2,500	3,000	150
Letter	30,000	5	2,500	3,000	150
Toxicomics Report	30,000	6	2,500	3,000	150
Review	30,000	5	2,500	3,000	150
Minireview	40,000	5	2,500	3,000	150

<sup>a</sup> 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion）、図表の説明、および引用文献の単語数の合計。<sup>b</sup> 論文原稿に含まれる単語、図、表、引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。



## 入 会 案 内

1. 本会に入会を希望される方は、「一般社団法人日本毒性学会定款」の内容を了承の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。  
申し込みにあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。  
評議員については「評議員リスト」([http://www.jsot.jp/about/list\\_councilor.html](http://www.jsot.jp/about/list_councilor.html))をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 理事長による入会の承認(定款第10条参照)が得られた後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は5月1日から4月30日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年度の機関誌開始号であるNo.3からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。

一般会員	7,000円
(ただし定款第16条に定めた評議員は10,000円)	
学生会員	3,000円
賛助会員	100,000円(1.0口)以上
(0.2口単位で増やすことができる)	

\*本年度入会希望の方は、4月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

## 変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://sct.mtpro.jp/user/jsot/>)へログインし、手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://sct.mtpro.jp/user/jsot/>)へログインし、手続きを行って下さい。

# 一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

平成 9 年 7 月 24 日制定 平成 23 年 1 月 14 日改定  
 平成 15 年 7 月 19 日改定 平成 24 年 1 月 1 日改定  
 平成 19 年 1 月 16 日改定 平成 26 年 5 月 1 日改定  
 平成 21 年 7 月 5 日改定 平成 26 年 6 月 17 日改定

## 1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するために JSOT 認定トキシコロジスト制度を設ける。

## 2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

## 3. 認定試験

- (1) JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- (2) 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- (3) 書類審査基準は次の通りとする。
  - (イ) 出願時に JSOT の会員であること。
  - (ロ) 出願時に 6 年制大学卒業後 5 年以上、4 年制大学卒業後 7 年以上、短期大学卒業後 10 年以上、高等学校卒業後 12 年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。  
 毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

- (ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が 80 点以上に達していること。
- (ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。
- (4) 認定試験は原則として年 1 回実施し、筆記試験とする。
- (5) 受験料は 3 万円とする。
- (6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

## 4. 認定

- (1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は 2 万円とする。
- (2) JSOT 認定トキシコロジストに適切でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

## 5. 認定資格更新

認定資格取得後 5 年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

## 6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

## 7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 26 年 6 月 17 日改定の本規程は同日から施行する。

## (付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 <sup>1)</sup>
論文	毒性学関連論文 <sup>2)</sup>		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学会 JSOT 認定学会 <sup>3)</sup>	10 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
講習会等	基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 <sup>4)</sup>	40 / 回 5 / 回	

- 1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については 10 点、それ以外の共同発表の場合は 5 点とする
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、JSOT 共催学会、JSOT 協賛学会（後援は除く）
- 4) JSOT 生涯教育講習会等

# 一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日制定	平成 24 年 1 月 1 日改正
平成 15 年 7 月 19 日改正	平成 24 年 7 月 5 日改正
平成 19 年 1 月 16 日改正	平成 24 年 12 月 12 日改正
平成 21 年 7 月 5 日改正	平成 26 年 5 月 1 日改正
平成 23 年 1 月 14 日改正	平成 26 年 6 月 17 日改正

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
  - (1) 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
  - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
  - (3) 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
  - (4) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
10. 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
11. 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則：平成 26 年 6 月 17 日改定の本細則は同日から施行する。

## 評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 参加 / 発表 JSOT 認定学会 <sup>1)</sup> 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 主催・公認講習会等 <sup>2)</sup> (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 <sup>3)</sup>	5 / 編	25

<sup>1)</sup> IUTOX 定期総会 (ICT), ASIATOX 定期総会, SOT 年会, EUROTOX 年会, JSOT 共催学会, JSOT 協賛 (後援は除く) 学会

<sup>2)</sup> JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

<sup>3)</sup> レフリー制度が整っている学術誌に限る

2014年12月1日 印刷

2014年12月1日 発行

発行人 眞鍋 淳

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-1-30  
イタリア文化会館ビル 8F  
株式会社メディカルトリビューン内  
一般社団法人日本毒性学会事務局  
TEL (03) 3239-7264 FAX (03) 3239-7225  
E-mail : [jsothq@jsot.jp](mailto:jsothq@jsot.jp)  
振替 00150-9-426831  
<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2  
TEL (022) 236-7161